

我が家のコーヒーショップ

広島県・広島大学附属東雲中学校 3年 高岡 沙弥

私は、小学校4年生の時から家でコーヒーショップをしています。きっかけは、その年の誕生日に念願だったレジスターを買って貰ったことでした。私は、レジスターを貯金箱の代わりに使おうと考えていましたが、父から別の提案がありました。父と母にコーヒーを淹れると、お金が貰え、その貰ったお金をレジスターに入れていくということでした。ただし、本当のお店のように、自分で材料を買ってきて、手数料や材料費の元が取れるようにという事を考えてやるように言われました。とても難しそうでしたが、父と母に協力するからと言われてやってみることにしました。

まず、私は材料を買いに行きました。必要なのは、コーヒー豆とミルク、コーヒーフィルターでした。いつも母が買っている商品と同じものを買いました。そして、これらの材料でコーヒーを何杯淹れることができるのかを考えてコーヒー一杯の値段を決めました。すると、思っていたよりも値段が高くなってしまいました。母にも意見を求めると、やはり少し高いと言われました。原因を探してみると、買っていた商品は同じでしたが買っていたお店が違っていたということが分かりました。母は、より安く売っているお店を知っていたのです。私は、そんなに細かいところにまで気が回っていませんでした。お店側が自分たちの利益を損なわず、お客さんに商品を安く提供するにはいろいろな工夫が必要なのだと思います。

私のレジスターには、中に入れるお金を打てば記録が残るという機能があります。その記録はボタンを押せば、レシートに印字されて出てくるシステムになっています。私は、コーヒーを淹れてお金を貰うたびにレジスターに記録を残し、毎月、母にその記録を見せることにしました。1か月目は順調で、レジスターの中に入っているお金と記録はきちんと一致しました。ですが、次の月はレジスターにいちいち打ちこむのが面倒でサボってしまった時が何度かあり

ました。すると、中に入っているお金と記録が一致しませんでした。その時母に「このコーヒーショップは、ただのお小遣い稼ぎじゃないんよ。みんな大きくなったら、自分で働いてお金を稼がんと生きていけん。これは、その予行練習なんよ。お金を稼ぐ大変さを知って、自分がやらんといけんことをしっかり分かって欲しいけえ、コーヒーショップを勧めたんよ。中途半端な気持ちでやったらいけんよ。」

と言われました。私は、反省しました。お金を稼ぐのは生易しいことではないと実感しました。それからは、面倒がらずに毎回レジスターに打ち込むようにしました。

何か月か経って、レジスターにもいくらかたまり、何か買いたいと思いました。そこで、父に相談をしました。すると、

「自分でためたお金なんじゃけえ、自分が欲しい物を買ったらええと思うよ。でも人のために使ったお金は、何らかの形で必ず自分に返ってくるっていうことも忘れんようにね。」

と言われました。その時私は、使ったお金がどうしたら自分のもとに返ってくるのか不思議でした。

「お金は、気持ちを表す方法の1つっていう意味だと思うよ。」

悩んでいる私に、母はアドバイスをくれました。

私は、母のアドバイスを聞いて何を買おうかよく考えました。そして、コーヒーを美味しく淹れるための新しいポットを買いました。自分にコーヒーショップをやらせてくれている両親に、もっと美味しいコーヒーを飲んでもらおうと思ったからです。そして、それは自分のためにもなると思いました。ポットを買った時、私はとてもうれしかったです。自分で生まれて初めて、稼いだお金で買ったからです。もちろんそのお金は私が実際に稼いだものではありません。家にあるお金は、すべて両親の努力から生まれたものです。父が仕事をし、それを母が支えているからあるお金です。それも知ったうえで嬉しかったのです。家族が、少しでも将来私の役に立つことをしてあげようという優しい気持ちから、コーヒーショップをさせてくれていること。それに応えることが出来始めていること。たまったこのお金は、家族の温かい気持ちからできているんだと思いました。

お金を稼ぐのはとても難しいと思いました。そして、人の気持ちを考えながらお金を稼ぐのはもっと難しいと思いました。その難しいことをいつもしてくれている、父と母に感謝しなければいけないと思いました。そして、恩返しをしていかなくてはならないと思いました。

